

2019年度「水俣・熊本みらい基金」助成事業報告書

企画テーマ	演劇を通して環境問題を考える
取り組み実施期間または日時	2019年10月20日 13時30分～16時

【取り組み目的】

水俣病公式確認から63年が経過しました。しかし、全面解決にはまだまだ時間がかかります。さらに、水俣病当事者にとって、これからの環境問題は大変憂慮する事態となっています。大量生産、消費、廃棄の「豊かな暮らし」を追い求めていた日本の高度経済成長期に水俣病は起きました。

水俣病事件は「暮らしのあり方を見なおす」ということも教えています。そのことは、現在起きている環境問題についても関心を持ち、発信していくことも突き付けています。

水俣病は終わっていないこと、教えていることを広く市民に訴え、共有していくための手段として、劇団天然木の公演内容（以下に記す）はふさわしいものと考えます。

【取り組み内容と成果】

取り組み内容

1、ピー子は飛んで行った

2006年アメリカで始まり世界中で起こっているミツバチの大量失踪、その背景には農薬、抗生剤、ミツバチの過労・ストレス、遺伝子組み換え植物の受粉、携帯電話の電磁波など様々な要因が指摘されています。この作品はミツバチの生態を西洋ミツバチと日本ミツバチを比較しつつ楽しく紹介しながら、なぜミツバチがいなくなったのか、心ある養蜂家や研究者の言葉を頼りに、ミュージカルにまとめたものです。

2、大矢野原に立って

山都町の大矢野原演習場で行われている日米合同軍事演習に対する住民の様子を田舎の婚活もからめつつ表現、笑いと涙をきゅきゅっと詰め込んだ二人芝居です。どちらも子どもから高齢者まで楽しく観ることができます。憲法9条の話はよくわかると思います。

成果

日本におけるミツバチの生態系を、ミュージカルで伝えることによって、自然との共生を始めとした、環境問題が直面する課題について、感想文にも見られるように、観劇したそれぞれの方たちが、受け止めて、自分の暮らしに活かしていただけるものと思います。感想文は別紙にまとめましたが、この欄では、2名の方を紹介します。

①お疲れ様でした。企画していただきありがとうございました。僕もいろんな種類の感動と涙を流しました。世界を探しても稀有な劇団であり、観る度に進化して思考も愛も深くなっています。そこに立って存在しているだけで泣けてくるような優しさと感動のオーラを身につけてます。これは表現者として素晴らしい事です。僕はしばらくこの感動に浸っていたいと思います。(熊本市、男性)

②あまり蜂のことを知らず、勉強させていただきました。特に48℃で死ぬとは全然知りませんでした。長女さんの歌とダンス気持ちよく見させていただきました。りんかちゃんの脚本、なかなかのものですが、もうちょっと言葉を少なめにした方がいいかな？難しいだろうけど、頑張ってください！

身近な題材だけに、大人も子どももひきつけられると思います。

第2部、二人芝居。あの展開とは予想を上回るもので感激しました。私は、ザ・ニューズペーパーが好きなので、二人がダブって見えるほど素晴らしいものでした。台本もしっかり作られていて、聞いている私たちが知らないことを教えてもらった気分です。今日は来て、ホントいい舞台を見せていただきました。感謝です！

(年齢はないしょ、女性)

水俣から発信することは、とても大事なのでこれからも活動を続けていきたいと思えます。

【備考欄】

・チラシを1200枚、チケットを200枚作成し、15団体へ配布他、100名の個人へお願いをしました。

・実行委員会を開催し、天然木との打ち合わせも1回実行しました。その様子は別紙にあります。当日は、全体進行を事務局の永野が、挨拶を代表の松永がやることなど、他役割分担をしました。

・チケット販売数106枚、当日入場者73名。